



No.35号

あごられ幌電路先、高橋芳恵  
TEL 011.563.6911  
NO.35通信担当者 加賀博之  
TEL. 011.882-0584

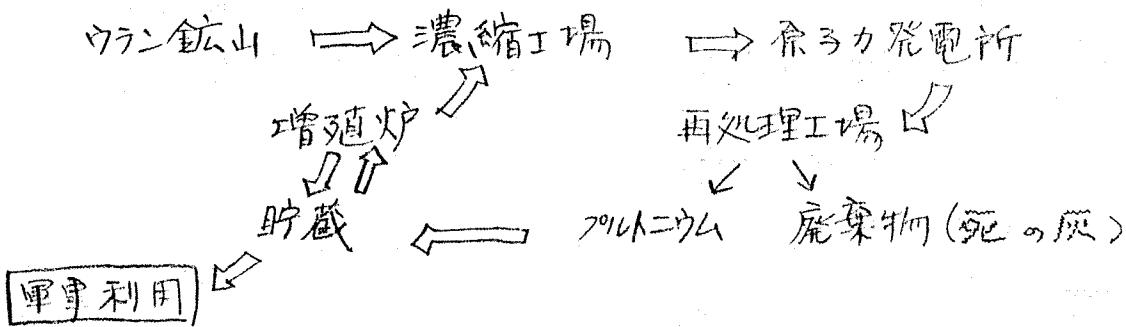
11月例会はミニコミ広場のみで、21名参加で行われました。10月より始まった「今戦争を考える」第3回講習会として、「原・ウカに和平利用はありえるか」のテーマで“地球の引僕の会”金木不のりさんをお迎えして行なわれました。

まず金木不さんが用意したレジメについて、核

の歴史・原発のしくみについて話していました。

○ <歴史> 20世紀初めに原子弹の研究が始まってから核分裂の発見。その後でできるフルトニウムを使っての爆弾製造、1945年ヒロシマ・ナガサキ、その後水爆開発、英・米・ソ等、続々と核実験さらに兵器開発は止まる所を知らずついに中性子爆弾へ……

<原発の構造>



このような核・原発の複雑なしくみをもとに、原発の本当に意図する所は何かについて話し合いました。

○ 悪条件下で命を切り売りしながらいかに労働者達の実態・廃棄物をついているういかんが野ざらしにされたり三角にすてられたりしている現状・又、安全性が充分でないということで、山中につくると、送電線や工場を維持するのにかかる燃料など逆にコストが高くなる等、原発のサイクルが完全に機能しえばいい限り石油より利用効率の悪い資源、略奪型のエネルギーと言えるのではないか。表向きは平和利用でも結局は大企業がさらに繁榮し、軍事手段として推し進められているのではないか、という話でした。

その後、天山の感想がききました。

- \* もっと数的的裏付けが欲しかった。
- \* 自分を大切にする故に、権利も主張し責任も感いるという仙の確立への意識が不足していることが、あらゆる運動の底からない原因だと思う

☆危機感を感じている人が多い  
☆反原発側の強力で明快な資料がほしい  
☆運動の形態として机上で語らしからだが、もっと体全体をつかって肌に感じられるような（例：演劇）運動展開をしたい。etc etc  
その他、「あこら」の位置付けとして、広かりすぎて「あこら」としての集会などではないぶつに、女の権利と生活を中心とした話題を、との意見も2.3ありましたか  
こういう問題が身近なものとして語られるようにもっと運動していくなければならぬのではないかとのアピールがありました。  
「地球の子供」である自然や未来のくらしを自らの手で守るために、真実に向って朝日に追求する姿勢をもちつつ「いましょう！」  
金木木さん、どうもごろうざまでした。 (文責 加茂)

## 今戦争を考える。第3回学習会

テーマ：「従軍看護婦の記録から」

講師：作家 沖藤典子氏

日時：12月20日（日）P.M 1:30 ~ P.M 3:30

場所：婦人文化センター 大通西19丁目（地下鉄西18丁目下車）Tel. 621-5177

連絡：中山和夫（自）704-0105（オフィス）222-5221  
加藤（安街）貞子（自）702-8753

友人の方々お誘い合せのうえ 是非 おいで下さい！

### Book

11月13日のあこら学習会「原子力の平和利用はありうるか」において、エネルギー問題、原子力発電等について、参考書紹介の要望がありましたので、紹介します。

①「ソフト・エネルギー・パスを考える」 長洲一三 編著 学陽書房 1600円

『現在のエネルギーの状況は、ちょうど栓の抜けた風呂に湯を流しきりいるようなものだと私は思います。つまり栓が抜けているのにもかかわらず、湯をいっぱいにしようと新しい温水器を取りつけたり、逆に風呂に入ることをあきらめてしまうのと同じ様なやり方をしているのです。私はこうしたバカげたやり方ではなく、栓を見つけてきてきちんと栓をするようなエネルギー使用法があることを訴えたいのです。……』この引用文にあるような視点から新しいエネルギー戦略を考えた好著。米1部だけでもソフト・エネルギー・パスの概要がわかります。

②「日本のエネルギー問題」 日本科学者会議編 太白書店 1800円

『（エネルギー）危機打開にとって、対米従属から脱却して非同盟諸国との提示する新国際経済秩序の方向と連動し、またこの連動を前提として、従来の独占資本本位の方向から国民本位への転換——産業構造とエネルギー構造の転換——をとることが根本問題……』というのがこの本の結論ですが、日本のエネルギー状況を技術的のみならず、社会的・政治的・経済的観点からも考察しています。①の米1部と比較しながら読まれることをおすすめします。

③「原子力発電」 武谷三男編 岩波新書（青版）

④「核先制攻撃症候群」 R.C.オーレドリッジ著 岩波新書（黄版） (岡本記)

## <12月例会の予案内>

毎年12月は親睦会をかねています。この一年、女たちの状況をふり返り、そして来年の思いを夜を徹して話し合いましょう。

日時：12月13日(日) P.M 5:00～

場所：大和家 (北1西2) (Tel 241-0760)

会費：¥3,500

会場申し込み人数確認の  
為、申込み者は、必ず  
12月6日までに連絡を !!

今村 683-9594

細谷 823-0738

加我 882-0584

### 運営委員会から

新しい運営委員が決まりました。

前期委員の皆さん ごくろうさまでした。

任期は 1982年12月までです。

よろしく おねがいします。

旧メンバー

加藤 ひよ

細田 恵里子

山 口 里子

吉原 ミツ

新メンバー

○ 加藤 ひよ Tel. 702-8753

○ 細田 恵理子 761-2938

○ 細谷 洋子 823-0738

○ 固本 ともみ 702-2857

○ 加我 博子 882-0584



### <み茶の会よりお知らせ>

み茶の会も早いもので、発足よりすでに一年の年月が過ぎ去りました。  
このあたりで重荷は順番に分ち合あうと 代表の交代をしました。

代表 今村雅子 (Tel. 683-9594)

\*12月例会

12月7日(日) am 10:00～am 12:00

婦人文化センター (大通西19)

ホール「第二の性」 読書討論

以降の例会は未定です。

日に決まりますので 代表までお問い合わせ下さい。

# Re情報らしeeeeeee

## ★ ウエの教科書攻撃!

「あごらミニ54号」にもありましたか、「家庭科教育総集長、半田たつ子さんから突然解雇されました。これは男女必修に対する文部省側の理不尽な応答をさせた同誌が大量返却されたことが原因ですか?」この背景には女子のみ必修を守る「性別役割分業体制」を維持しようとする政府の圧力があると思われます。教育界における統制、管理体制が強化されつつある危機的状況の現在、半田さんは「W2の教科書問題」に立ち向かい、「新しい家庭科 -We-」を創刊することにしました。

男と女の自立を、人間らしい生活を、差別的ない社会を、それを具体的に学び、実践力をつける事に男女必修をと願い、生活と教育を私達の手にとり戻そうと主張する家庭科教育誌です。あごらに集う私たちと同じ女の視点に立つの本を、あなたにやあなたの方々へ、参考の方々にぜひお読み下さい。

★毎年3月創刊予定 年10回

★年間5,000円(送将込)

★販売 T181 東京都三鷹市中原  
4-4-22. ウイ書房

★振替 東京6-59867

○教科書法案の国会公聴会を阻止する北海道集会

とき	1981. 12. 6 (日) PM. 1:00 ~
ところ	婦人文化センター (大通り西19丁目)
講演	出版労連から、報告
連絡先	近藤 順 (271-4103) 託児あり
主催	教科書攻撃に立ちむかう行動委員会

○第2回 連続市民憲法講座 「教科書と平和」

とき	1981. 12. 15 (火) PM. 6:00 ~
ところ	教育文化会館・中会議室
報告	教科書における平和教育…佐藤義雄 アバゲー; 教育現場から、生徒の意識の変遷 …三笠市幾春別中学校教諭・江刺誠一
主催	憲法協・北海道支部

★三河野貴代美 サンカ、講演  
7月のフェミニストセラピー講演会からおひでで、4才市社会教育委員会の招待で10月、4才市内で講演会が開かれました。  
うれしいお知らせですね。

★あごら通信の読者、鶴田郡の笠原さんから「あごら」の活動への励ましの手紙をいただきました。

どうもありがとうございます。

## 【婦人問題】一口メモ――

### 家庭基盤の充実に関する対策提綱

1979. 6月 自民党からだされたもので、①家庭を国家社会の中核的組織と位置づけ、②国家と地方自治体及び地域と家庭との役割分担を明確にし、老親の扶養と子供の保育としつけは第一義的には家庭の責務とする。このため家庭の日を新設し、主婦の家庭労働、育児を見直し、親子3世代の対応からの本拠地とする。特に「日本の福祉のあり方」として、老親扶養を各家庭に負担せようということ、及び婦人労働に対する対策として、育児期の婦人労働者は高くなつて、家庭を強調してやめさせ、育児から手が離れた中高年の主婦を低賃金、無権利のパート等として(便益)といふのがある。(婦人問題辞典より)

(あごら22号にものつています。

家庭科教育と合せて  
若え子 (えこ)